



り、また事業収益の伸びが直近2年度は3%以上伸長しました。但し、「医師数」が直近5年では初めてマイナスになり、「純損益」と合わせて、今年度の結果にかかって

患者数は対前年で、入院が件数で1万5684件と微増、延数は18万8137件で微減、ベッド移動前後の影響が反映しました。3年連続減少していた外来件数は全体で微増し、中央・京都協立・かどの三条こども・かみの・吉祥院こども・あらぐさ・ふくちやま協立・仁和歯科で増加しました。延数は全体で減少しましたが、中央・京都協立・かどの三条こども・かみの・吉祥院こども・久世・あやべ協立・ふくちやま協立・仁和歯科・九条歯科で増加しました。健診件数は多くの事業所で増加、ワクチン件数は、小児科で約6700件増加したことが特筆です。

経常損益は1億8849万円（対予算+1億6487万円、対前年+1813万円）で、直近5年間で最高となりました。純損益は▲9224万円とマイナスで、上京病院建物除却費用や固定資産整理によるものです（グラフ①参照）。看護学校を含むと経常損益1億5636万円、純損益は▲1億1474万円です。事業収益は150億4481万円（対予算+2億4715万円、対前年+4億6740万円）で過去最高となりました。2008年に140億円を超え、その後3年で10億円以上増加しました。構造転換事業の経営計画は、2013年度に150億円をめざしたので、2年早く達成しました（グラフ②参照）。

収益の大幅増は、各事業所のたかいつ対応、事業計画、予算を積極的に理事会、各事業所管理会議、職場、共同組織で具体化し実践した結果が反映したものです。各収益科目では、対前年で入院・外来とも約2億円の増収、また、保健予防収益が5753万円増加しました。予防接種の収益は前年比16.8%増加し、公費接種拡充を求める運動の成果を踏まえ各事業所での対応が進みました。健診も5.4%、1千万円以上の増収となり、友の会と連携した健康を守る活動は、経営活動でも重要な柱となってきました。介護事業は事業（所）休止等があり、対前年では初めて減収となりました。訪問系や居宅支援・包括支援では増収となりましたが、通所系は上記の要因があり、全体で減収となりました。

た（グラフ③参照）。事業費用は147億5636万円（対予算+6250万円、対前年+3億6420万円）でした。特徴は、対前年比102.5%で事業収益の伸び（103.2%）以下に抑えられたことです。各費用では、人件費計は予算内となりましたが、医薬品費や材料費は増加し、事業収益に占める割合が増加しました。建設に伴う減価償却費、控除対象外消費税が増加しました（グラフ④参照）。

5 全日本民医連要対策項目について
緊急対策（短期指標）の該当はなく改善傾向です。中期項目も該当せず、外来患者数が3年ぶりにプラスとなり、また事業